

地域アンシエーションの芽(89)

京都大学名誉教授 本山美彦

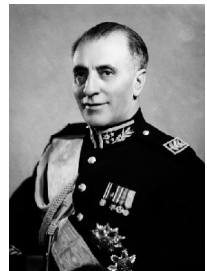
種子をめぐる勢力(35)

イランを知る(その4)

クーデターを指揮した前国王のコサック時代の後輩

イランには、国王のパフラヴィーを支える有力部族はいなかった。

前月号で紹介したように、イランで首相になっていた「モハンマド・モサデク」(Mohammad Mosaddegh、1882～1967年)が、1953年のイラン軍部によるクーデターで失脚させられた。



フズルアー・ザーヘディー

有力部族との姻戚関係はなかった。初代パフラヴィーが打ち倒した前王朝は、「ガージャール王朝」(Qajar Dynasty、1796年～1925年)で、現在のイランを中心に支配したトルコ系のイスラム王朝である。

当時のイランの軍部を指導していたのは、將軍の「ファズルアー・ザーヘディー」(Fazlollah Zahedi、1892～1963年)であつた。

この將軍ザーヘディーについて少し説明しておこう。ザーヘディーは、帝政ロシアで訓練を受けるべく、イラン・コサック旅団に勤務していた。その時のザーヘディーの上官が、初代のレザー・ハーンであつた。

ザーヘディーは、レザー・ハーンと共に戦つて、前王朝の打倒に成功し、新国王レザー・ハーンの下で將軍職を勤めていた。

しかし、1941年、ドイツ軍に通じているとの疑いで、英国は、レザー・ハーンを国王の座から引き



戦車に乗って勝利を祝うクーデター支持者たち(1953年)

ずり降ろし、国外に追放した。

同じく、ザーヘディー將軍も、ドイツ軍と共謀して大規模な蜂起を計画しているのではないかとの疑いで、英国によってパレスチナに追放された。

1945年、レザー・シャリーの息子モハンマド・レザー・シャリーが国王に復帰すると、ザーヘディーは、帰国を許され、モサデク政権下で軍の要職に就くようになっていた。

1954年のクーデター後、ザーヘディーは首相に任命された。

結果的に、ザーヘディーは、昔のコサック仲間、そして自分を將軍まで引き立ててくれた前国王を裏切つたのである。

ザーヘディー内閣の閣僚の3分の1は軍人だつた。彼の首相としての任期は1955年4月に終了した。

彼の最後の役職はジュネーブの国連大使で、1963年、その地で亡くなった。

ウィリアム・ダーシー

1901年、英国人「ウィリアム・ノックス・ダーシー」(William Knox D'Arcy、1849～1917年)という人がいた。イランとその周辺地域における油化



ウィリアム・ダーシー



主要産油5カ国会合に参加するイラン代表团

Iranian Oil Company」(AIOC)に改称した。

1953～1954年のクーデター中に、会社名をさらに「ブリティッシュ・ペトロリアム」(British Petroleum, B.P.)に変更した。

石油メジャーには、イランだけでなく、アラブ諸国も莫大な石油収入を得ていた。米国に追従していた。パフラヴィー政権内部でも、石油問題に関しては、アラブ諸国と協同歩調を取るべきだとの声が強かつた。パフラヴィー政権と言えども、石油に関しては、むき出しの親米姿勢を保つとはできなかった。

彼は、当時のガジャール朝から、トルコ南部帯の石油探掘権を獲得していた。

1908年には、メソポタミアの古代都市の「メスジデ・ソレイマン」(Masjed Soleyman)で中東初の大規模油田を発見した。

1909年には、探掘を進めるため、「アングロペルシア石油会社」(Anglo-Persian Oil Company)を設立した。

1935年、当時のパフラヴィー朝は、国名をこれまでの「ペルシャ」から「イラン」に変更した。それにとりあつて、自社名も、同年に、「アングロ・イラン石油会社」(Anglo-Iranian Oil Company)に改称した。

ホメイニ革命前のパフラヴィー政権とアラブ諸国との関係は、複雑なものにならざるをえなかつた。

親米・非アラブ・非シリア

の立場を英米から押し付けられることになったイランにとって、ラジカルな社会主義と強烈なナショナリズムを内包するアラブ圏の中で生きるためには、警戒と協調とが入り交じつた複雑な緊張関係に立たされるしかなかったのである。

ケマル・パシャ

イランの近代化に大きな影響力を与えた「ケマル・パシャ」(Kemal Pasha、1881～1968年)は、「オスマン帝国」(Ottoman Empire、1299～1922年)を解体し、近代的な「トルコ共和国」(Republic of Turkey、1923年)を建国した。目立つ業績としては、①政教分離、②イスラム法とされてきた「シャリーア」(Sharia)を廃止、③アラビア文字を廃止しローマ文字をベイスにした新文字を採用、④一夫多妻制を禁止等々。

これに影響されたイランのパフラヴィー父子は、①女子教育の拡充、②テヘラン大学への女子学生の入学許可、③女子の最低結婚年齢を15歳へと引き上げた。私たちが見落としている重要な点である。



ケマル・パシャ

社会資本政策研究会

関連団体を支援する会
K U

関西生コン関連
経営者会

悩み事相談、中小企業問題、労働問題など
ご連絡ください。秘密厳守いたします。

オールジャパン労働組合

電話 (06) 六八〇九一六六三四

吉野建設株式会社